

学校だより



くろくふう

校訓 継続は力なり

鴻巣市立吹上中学校

学校だより「緑風」は、毎月本校HPに掲載しています。

本校HP <https://fukiage-j-konosu.edumap.jp/>

令和7年7月1日(火) 第4号

「今日わ」(こんにちは)

校長 大島 進

いきなり手前味噌で大変恐縮ですが、本校の環境を整備してくれるスタッフは本当によく動いてくださいます。大変広い敷地内の樹木や雑草の伐採をこまめにやってくれるお陰でなんとか最初の頃は環境を維持していましたが、驚異的な植物の生命力に、私もたまにですが参戦するようになりました。本校は住宅に囲まれています、やはり夏を感じるのは植物の成長の勢いであったり、雲の厚さであったりと自然の様子から実感することが多いと感じています。

1学期も残すところ3週間となりました。生徒は、この1学期の自分の生活を振り返る時期となります。4月に立てた目標や大事にしてきた言葉に対して、1学期の生活はどのような自己評価がつけられるのでしょうか。新しく挑戦してきたものは、今までとは違う努力が必要になったはずですから、続けることはさぞかし大変だったのではないのでしょうか。しかし、その継続が自分の生活に定着していくとその行動が「あたりまえ」となり、自分のレベルが上がったこととなります。生徒の皆さんが少しずつレベルを上げていき、成人した時に自分の力で生きていけるようになってほしいものです。

さて、レベルが上がったものの一つに、「あいさつ」をあげる人もいるかもしれません。以前にも述べましたが、吹上中学校の生徒は爽やかな挨拶をする生徒が多く、最近さらに良くなったように感じます。挨拶は幼少の時から人生の終わりを迎えるまであたり前のように幾度となく繰り返されるものです。

挨拶にちなんで北村西望(きたむらせいぼう)氏について述べさせていただきます。北村氏は、長崎出身の彫刻家です。調べてみると長崎平和記念公園の像の作者です。この有名な彫刻家の先生が「今日わ」(誤字ではありません)という題で彫刻した作品(おそらく本物ではないと思います)が本校に飾ってありますが、北村氏はその作品を製作した理由を次のように述べています。

『子供というのは 見よう見真似で父母より学ぶそうだが 子供から教わることもある 子供は「こんにちは」の挨拶で歩き出し 「こんにちは」で幼少の頃より 自然に育っていくのだ 愛嬌ある子供の挨拶は 人としての温もりを感じさせる 私は忘れられない人本来のあるべき姿として彫ってみた』

(大変達筆な文字で、正確に読み取れていない言葉があるかもしれません)

「こんにちは」というわずから文字の言葉のやりとりであっても人としての温もりを相手に感じさせることができるということはとても素敵なことだと思います。

挨拶は、短い言葉ですがその時の相手の様子を感じるときがあります。今日も元気だとか、疲れているなどの様子は言い方によって伝わってきます。時には、その時の表情なども総合的に判断して、人柄までも感じ取ることが出来るものかもしれません。

また、挨拶は相手の存在を認める言葉です。登山をしたことのある人は、ご存じでしょうが、山では初めて会う人でも、すれ違う人にお互いが挨拶を交わします。万が一遭難したときに、挨拶を交わした人が覚えていて救助隊にもたらした情報が救助の参考になるという効果もあることから、すれ違う人との挨拶が山でのマナーとなっているそうです。

他のことに気を取られたり、別の人と話していたりして、時には相手の挨拶に気付けないときもありますが、できる限り大切にしていきたいものです。